

## 生涯学習センターに関するこれまでのご意見（答申より）

### ●これまでに頂いた答申及び報告書

2010年3月 社会教育委員の会議

①「町田市における生涯学習センターの機能、学習機会の提供のあり方について－答申－」

2010年10月 生涯学習センター機能検討委員会

②「生涯学習センター機能にかかる具体的施策のあり方について - 最終報告 -」

2012年3月 社会教育委員の会議

③「『町田市生涯学習センター』への提言」

2013年7月 生涯学習審議会

④「町田市における生涯学習の進め方について－答申－」

2016年3月 生涯学習審議会

⑤「地域社会の課題に対応する生涯学習のさらなる充実に向けた仕組みについて－答申－」

2016年3月 生涯学習センター運営協議会

⑥「市民大学構築に関する検討報告書」

2018年3月 生涯学習センター運営協議会

⑦「地域における学習支援－生涯学習センターの役割と機能－」

2020年3月 生涯学習審議会

⑧「町田市生涯学習センターに求められる役割について－答申－」

※①、②、③の全文をご覧になりたい場合は、事務局までご連絡ください。

④～⑧の全文は、町田市ホームページで公開しています。

## ①「町田市における生涯学習センターの機能、学習機会の提供のあり方について - 答申 - 」 社会教育委員の会議 2010年3月

### 諮問に至る経緯

2009 教育プランにおいて、生涯学習推進施策が体系化され、初めて全体の計画が示されたが、これまでの施策の不十分な点が浮き彫りとなった。

庁内外を問わず様々な関係機関が生涯学習の取り組みを展開している中、今後教育委員会が、総合的な幅のある視点で生涯学習を推進することを目指し、生涯学習の「センター機能」について議論を行った。

### 課題把握

- ・まちだ市民大学HATSと公民館の講座事業が重なる内容になってきており、目的・性格の明確化を含めた総合的な再構成が必要。【1(3)1)、3)】
- ・生涯学習事業は庁内外の多様な主体で展開されていることから、今後教育委員会が生涯学習を推進するにあたっては、それぞれの意義を明確にし、幅広い学習の視点で連携のあり方を問い直すことが求められる。【はじめに、2(3)】
- ・市民の中の新しい動きに目を向けながら、既存の地域組織や仕組みと繋ぎ、活動について助言したりコーディネートするような機能が必要。【1(4)3)】
- ・庁内における市民活動支援のためのプロジェクトを個々の単位にとどめておくのではなく、相互に結びつけ、新たなプロジェクトを創り出す。生涯学習行政として、ネットワークの形成を図ることを中心的課題とすべき。【2(2)】

### 今後の方向性や取組案

- ・生涯学習のセンター機能は、全体計画の立案、生涯学習情報の提供、市民主体の学習を進めるための人材育成システムの構築、新たな学習プログラムの開発のための研究調査、生涯学習を進めるためのネットワークづくりが主な役割(①企画調整機能)。【3(1)】
- ・上記に加え、②市民への学習提供の計画づくり、③市民への生涯学習情報提供、④生涯学習センターへの市民参加を挙げている。【3(2)～(4)】

→実現のための具体策

- 生涯学習審議会を新たに設置【4】
- センター機能の実現のための組織体制の整備【4】
- まちだ市民大学HATSと公民館の総合化【4】
- ランチとなる拠点施設の設置【4】
- 市民参加の仕組みを構築、生涯学習を推進する職員の専門性の向上【4】

## ②「生涯学習センター機能にかかる具体的施策のあり方について - 最終報告 - 」生涯学習センター機能検討委員会 2010年8月

### 報告書作成に至る経緯

答申①を受け、生涯学習推進へ向けた拠点機能や組織の整備の方向性について整理する必要があったため、他市事例等を検証しながら内部検討を行った。

### 課題把握

・市民大学の進むべき方向性として、講座の目的・性格の明確化、情報技術を駆使しての学習情報の提供の2点が提言されている。(2007年HATS運協『まちだ市民大学HATS推進計画』検証と提言)【Ⅲ2(3)】

・庁内外問わず多種多様な生涯学習の機会提供が行われているが、その集約・整理については行われておらず、町田市内部に限定しても、その全体像を把握している部署は存在していない。【Ⅲ4】

### 今後の方向性や取組案

・市全体の計画等との整合を図り、全体を見渡して生涯学習を推進するため、下記4つの機能を一括して担える市の生涯学習の拠点となる組織を構築する必要がある。【はじめに】

- ①生涯学習を体系的に提供するための全体計画立案機能
- ②関係機関との総合調整機能
- ③情報集約・発信機能
- ④学習相談機能

・生涯学習センターは、策定された基本構想や基本計画等を具現化する推進計画、実行計画の策定を行い、それらの遂行を部内横断的に所管する。【Ⅳ1】

・施設としては、教育センター、学校開放の特別教室、跡地教室、陶芸スタジオなどを、生涯学習センターが事業を展開していく上でブランチとして想定。

#### 【Ⅳ3(1)】

→生涯学習センターの業務内容【Ⅳ3(3)】

- 実施計画立案業務(市民に向け、生涯学習の機会や場を整理・体系化する)
- 実施計画推進業務(事業個別の年次計画を設定する)
- 総合調整業務・情報集約・発信業務(市の生涯学習分野のポータルを担う)
- 学習相談業務(情報データベースを活用し、学習相談のしくみを構築)
- 人材育成・協働推進業務(生涯学習のコーディネーターを養成・支援する)
- 生涯学習施設(生涯学習センター及びブランチ)管理

### ③「『町田市生涯学習センター』への提言」 社会教育委員の会議 2012年3月

#### 提言に至る経緯

生涯学習センターの設立に向けて、町田市教育委員会に対し、社会教育委員が主体的に審議・提言を行った。

#### 課題把握

- ・「まちづくり」のために活躍できる市民を育て活かす仕組みを「生涯学習センター」という新たな「機能」として確立することが設立の狙いである。【Ⅰ 1】
- ・首長部局各部署で重複して同じような学習が行われていることも多い。【Ⅱ 2】
- ・首長部局各部署や関係機関、団体などと連携のネットワークを強化し、必要な学習情報を「収集－整理－提供」することがセンターの中核事業。【Ⅱ 2】
- ・学習相談にあたっては、市民活動やNPO等につなぐ「つながり支援」が必要。  
【Ⅱ 2 3】
- ・人的資源を拡充することは欠くことのできない課題である。地域から生まれてくる活動家を支援することが、センターの第一の役割である。【Ⅱ 3】
- ・コーディネートとは、人（機関・団体を含む）と情報、人と人、人と学習資源を適切に結びつけることであり、生涯学習の活性化のために欠かせない課題である。【Ⅱ 3 1】

#### 今後の方向性や取組案【Ⅱ 4】

- ・首長部局及び教育委員会において展開されている多種多様な教育・学習事業について、その全貌を調査し整理して提供することにより、生涯学習の幅を広げるとともに、事業の効率化を図る。
- ・個人・団体のネットワーク化を図る。
- ・地域教育力を広げ高めていくため、これまでの青少年教育の事業全体を点検するとともに、市内で活動する青少年関係団体の現状把握と情報収集を行う。
- ・地域に住む人で、課題を共有しながら活動する「生涯学習クラブ」の結成とプログラム支援。
- ・明日の社会づくりのための若者支援（自立就労支援や地場産業の掘り起し等）。

## ④「町田市における生涯学習の進め方について一答申」 生涯学習審議会 2013年7月

### 諮問に至る経緯

2009 教育プランで生涯学習推進施策が初めて体系化されたが、重点プランの期間終了に伴い、新たな重点プランの策定が必要となった。社会状況の変化等を踏まえ、教育プランの内容を見直すために議論を行った。

### 課題把握

- ・「生涯学習」は高齢者を中心とした趣味的な活動として見られがち。そのため、本来生涯学習が果たすべき社会的な役割を担いきれていない。【2 (1)】
- ・市民の中にあるニーズをどう掘り起こすか。また、既存の講座等に参加できない市民、学習の機会を求めている市民への支援をどう進めるか。【2 (2)】
- ・市長部局及び行政委員会の各部局で多種多様な生活課題に関わる事業を進めている。生涯学習の視点からは、これらを学習の機会の一つとして捉え、その活用をはかることにより、学習機会の多様性を確保することが求められる。【2 (3)】

### 今後の方向性や取組案

- ・行政の啓発・学習活動の全体像を調査し、生涯学習の観点から整理を進める。【2 (3)】
- ・情報提供の仕組みを構築し、既存の生涯学習事業と結びつける。【2 (3)】
- ・学習成果を社会へ還元する仕組みを充実させる。【2 (4)】
- ・学習者の成果発表（情報発信）の機会を広げる。【2 (4)】
- ・地域の人材や文化資源を生かすことが教育の充実につながる。児童生徒・学生が地域体験を深められるように、地域に受け皿を作り、生涯学習の資源を充実する取組を行う。【2 (5)】
- ・事業全般的な見直しと機能の深化を図る。【2 (6)】
  - 従来型の講座に偏した運営から脱皮して、市長部局及び各行政委員会、他機関、他団体との協働事業を積極的に展開し、生涯学習のプロモート機能を強化する。
  - 市民活動を広げるための支援講座に力点を置き、市民活動のノウハウを体系的に学べる場を確立する。
- ・中長期（5年先）を見通した発想転換、体質改善のための計画を作成する。【2 (6)】
- ・生涯学習に関わる調査・研究機能を確立する。【2 (6)】

## ⑤地域社会の課題に対応する生涯学習のさらなる充実に向けた仕組みについて一答申一 生涯学習審議会 2016年3月

### 諮問に至る経緯

地域社会がより豊かなものになるよう、地域の課題を発見し、その解決策をさぐり、人々の絆を作り上げていく生涯学習の新たな方策が求められている。市だけでなく様々な教育機関や団体が学習機会を提供している中で、これら多様な機関が相互に連携し、地域社会の課題解決に寄与するための学習を、より効果的に支援することを目指し、議論を行った。

### 課題把握

- ・市民の価値観やライフスタイルが多様化したことにより、近隣との人間関係や町内会・自治会の活動の必要性を感じなくなったり、身の回りの地域に関心や愛着を持たなくなっている人が増えている。従来とは異なるやり方でコミュニティづくりを考えなければならない。【1 (2)】
- ・地域課題は多様化・複雑化しており、すべてに行政だけで対応することは困難になってきている。そのため、地域の課題を地域の住民自らが解決していくような仕組みを考え出す必要がある。【1 (3)】
- ・学校や地域によって取組状況に差があるなどの課題がある。【4 (5)】

### 今後の方向性や取組案

- ・生涯学習が市民一人ひとりの生活とともに地域社会に密接な関わりがあり、それらを豊かにしていく役割があることを広く、分かりやすく周知し、その重要性を理解してもらおう。【4 (1)】
- ・地域住民の地域への関心を高め、主体的な活動につながるような支援を続ける。【4 (2)】
- ・地域と人財をつなぎ、地域課題の解決に寄与する仕組みを構築する。【4 (3)】
- ・複数の部署が連携しながら進める取組は多くないため、行政内外を含めた連携・協働のための仕組みづくりを進めていく。【4 (4)】
- ・学校と連携した地域の生涯学習をさらに充実・推進していく。【4 (5)】
- ・生涯学習に関わりのない公共施設も生涯学習の拠点として大きな役割を果たす可能性があることに注目し、各施設が担う役割を生涯学習の拠点から改めて検討し、実施事業に反映させていく。【4 (6)】

## ◎市民大学構築に関する検討報告書 生涯学習センター運営協議会 2016年3月

### 報告書作成に至る経緯

これまでの答申の指摘を受け、長きにわたり実績を積み上げてきた模範的事業である「市民大学講座」の現状と課題を整理することで、市民大学講座がより発展的に展開できるよう再構築をめざすとともに、生涯学習センター全体のありべき方向性を探るべく議論を行った。

### 課題把握【2(2)】

- ・「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトのうち、市民ニーズを重視した「あなたを励ます」型の学習は当初の目的を果たしたが、市民活動やボランティア養成を重視した「地域を育てる」型の学習は、プログラムづくり、学習の循環、出口戦略が不明瞭。
- ・応募者の年齢層が高く、ことぶき大学との差別化が難しくなっている。この状況が続けば、地域社会や地域文化を担う次世代の人材を生み出せなくなる可能性がある。
- ・「プログラム会議」に講座づくりの指針が示されていないため、従来の枠組みを超えての新しいプログラム作りが難しい。
- ・生涯学習センター運協、プログラム委員、担当するセンター職員との意思疎通が不十分であり、役割分担が明確とは言えない。

### 今後の方向性や取組案

- ・毎日の暮らしや生活する街が、もっと元気に豊かになること。皆で納得解を見つけ、行動していくという市民力醸成の学習の場が大切。【3(1)②】
- ・市民としての意識を形成し、社会参加する活動をとおして、行政に依存しがちな発想から、社会の形成に主体的に参画し、支え合い、協働することを目指す。【3(1)③】
- ・講座づくりの指針を策定する。【3(2)】
- ・原則として、地域課題と関連する講座は内容の改善を図り継続する。【3(2)】
- ・地域課題を自主的に発見し、解決策を迫っていくための核となる人材を養成するという観点から、まちだ学総合講座(仮称)を新設し、課題解決型のプログラムを目指す。【3(2)】
- ・従来型の講座運営から脱皮して、他機関・他団体との協働を目指し、町田の生涯学習全体をプロモートしていく機能を強化していくべき。【まとめ】

## ⑦地域における学習支援 —生涯学習センターの役割と機能— 生涯学習センター運営協議会 2018年3月

### 報告書作成に至る経緯

生涯学習センターの設置後4年が経過し、かつ2017年度から次期教育プラン及び生涯学習推進計画の検討が予定されていたことから、「役割と機能」について再度協議することとなった。

### 課題把握【2(2)】

- ・「町田市市民参加型事業評価(2015年度)」において、「市民ニーズを適切に把握するための仕組みづくり」や「学習成果の地域還元」、「地域や庁内連携による活動拠点の充実及び内容の充実」などが課題に挙げられた。
- ・「市民大学構築に関する検討報告書」において、市民大学の「地域を育てる」のコンセプト結びつく「市民社会型」の学習のあり方の検討や「ことぶき大学」との差異化、講座づくりの指針の提示などが課題であると指摘があった。
- ・生涯学習センターに期待される役割として、地域との関係構築と強化、さらには地域内連携の推進のためのネットワークづくりが求められている。【3(2)、(3)】

### 今後の方向性や取組案

- ・能動的に地域に働きかけていくような市民力の醸成が重要。暮らしよい街を自分たちの手で作っていくという市民自治の精神を育てる。【3(4)①】
- ・地域住民・関係団体の調整役となるコーディネーターや、意欲・力を引き出すファシリテーターの育成も視野に入れた能動的な学習の場を提供する。【3(4)②】
- ・生涯学習センターの職員には、町田市全体あるいは地域の学習基盤全体を常に俯瞰し、さまざまな行政課題や地域課題を焦点化し、行政の他部署と関連する事業を横断的につないでいく力が必要である。【3(4)③】
- ・各地域で住民が自主的に運営する「学習の場」と生涯学習センターが連携・協働して事業を進めていくことが必要。【4(1)①】
- ・地域の課題を解決するための人財や団体を養成する講座を行うような“地域発の生涯学習拠点”の開設。【4(1)②】
- ・世代間交流を目的とし、幅広い年齢層が一緒に参加・活動できる事業を地域にある空間を利用して行うことで、より地域密着型の事業を展開する。【4(1)③】
- ・「楽しく学んで豊かに生きる」を目的としたことぶき大学と「あなたを励まし、

地域を育てる」を目的とした市民大学のコンセプトを大切にしながら、既存の講座の再編・拡充、両大学の統合発展、大学院新設等の改革案の検討を進める。

**【4（2）】**

## ⑧町田市生涯学習センターに求められる役割について - 答申 - 生涯学習審議会 2020年3月

### 諮問に至る経緯

生涯学習センターの設置から7年が経過し、社会環境の変化により市民の学習環境も大きく変化している。それらの変化に対応していけるよう、将来を見据えながら、絶えず学習支援の取組を見直す必要があるため、議論を行った。

### 課題把握【2(2)】

- ・生涯学習センターの会議室を拠点に学習事業を展開していることや、施設の認知度の低さなどから、学びを必要としている人が学習情報や学習機会を十分に得られていないことが考えられる。
- ・生涯学習センターの利用目的はグループ学習や自習スペース、憩いの場など多岐に渡るため、施設に対して利用者の求める環境は多種多様である。利用者や現在利用していない人のニーズを踏まえながら、よりよい学習環境を整えていく必要がある。

### 今後の方向性及び取組案

- ・市民一人ひとりが自分に合った学習活動を行えるよう環境を整備することが、生涯学習行政が果たすべき最も重要な役割。とくに、様々な事情で学習のための支援が必要な人や、学習機会を十分に得られない人たちをしっかりと支援していくことが必要。【3(1)】
- ・市民生活や地域社会の課題解決に向けた学習を支援していくことが必要。より身近な場所で学ぶ機会を提供することで、多くの市民の意識を高めることも重要。【3(2)】
- ・推進役となるリーダーやコーディネーターの育成、地域の担い手のスキルアップにつながるような学習を充実させていく。【3(2)】
- ・より多くの人の生涯学習への関心を高め、学ぶことの楽しさを伝えて行くことで、市民一人ひとりの継続的な学習につなげていくことが必要。【3(3)】
- ・生涯学習センターが庁内各部や各種機関団体などと連携し、つなぐ役割を担うことで、市民への学習支援をより効果的に展開していくことが必要。そのためには、学習情報を収集・体系化し、学習全体の「見取り図」を作り、市民に提供することで、必要な学びの機会につなぐことが大切である。【3(4)】
- ・学習成果を活かすことができる場や機会へとつなぐことで、学びを地域社会へ還元していくことが大切。そのためには、学んだ人が地域活動へスムーズに参加できるような仕組みを整える必要がある。【3(4)】